

## 程度補語に関する一考察

—“～得很”、“～得厉害”などについて—

徐 曼

### A Study of the Complement of degree

— on the Usage of “～得很”, “～得厉害” etc —

Xu Man

The complement of degree is divided into three kinds as degree, result and description, appraised as judgement of an action.

This paper attempts to inspect and analyse the structure of complement of degree which indicates high degree, through the sentence “～得很”, “～得厉害”, “～得多”. The element which is in front of “～得很”, “～得厉害”, “～得多” is usually an adjective or the verb which identifies a state of mind is used. But whether all adjectives or verbs can be used or not, and how to select the verb or adjective in front of “～得很”, “～得厉害”, “～得多”, and what the function is in the sentence of the words “很”, “厉害”, “多”, will be discussed in this paper.

#### 0. はじめに

動詞或いは形容詞に後接する“得”で導かれる補語については、さまざま名称が与えられている。例えば今日の文法研究者によって、“情態補語”（劉月華、潘文娣、故粹『實用現代漢語語法』）、“帶‘得’字的補語句”（李

臨定『現代漢語句型』、松村文芳「現代漢語“得”字結構研究」、“状態補語”（朱德熙『語法講義』）、“結果補語”（黄伯荣、廖序東『現代漢語』、“程度補語”（馬真『簡明實用漢語語法』、北京語言学院『中級漢語』）などと称されているが、ここではひろく程度補語としてあつかうことにする。

“得”で導かれる補語はその表す意味によってつぎのように大きく三種類に分類される。

第一類；“得”の後の補語が程度の高いことをあらわすもの

第二類；“得”の後の補語が動作行為に対して、描写、評価、或いは判断をあらわすもの

第三類；“得”の後の補語が動作或いは状態の結果をあらわすもの

小稿では程度補語構文において程度の高さをあらわす第一類の程度補語のうち、“～得很”、“～得厉害”、“～得多”の、特に述語成分の意味的な特徴について考察してみたいと思う。

## 1. 程度の高さを表す程度補語とは

この種の文によくあらわれる補語としては、“很”、“慌”、“多”、“厉害”、“要死”、“要命”、“了不得”、“不得了”、“不行”などがある。程度補語文の述語部分には一般に否定形式はあらわれない。

例；1. 那位医生膀大腰圆，身子骨挺结实，手劲自然也大得很。

2. 它大概闷得慌，它也害怕独处自省。

3. 在这里舒服得多。

4. 话难听得要命。

5. 他气得不行。

6. 天热得不得了。

7. 孩子想家想得了不得。

以上の例文に明かなように、この種の程度補語文の中の、“得”の前の述

語に相当するものは形容詞相当の語（例1、3、4、6）であり、または動詞成分（例2、5、7）である。しかし、この種の文の“得”の前に、すべての形容詞または動詞を用いることができるかどうか、さらに詳しい考察が必要とされよう。まず次の例を見てみよう。

- \* 8. 这儿的风景美丽得厉害。
- ? 9. 那个菜好吃得要死。
- \* 10. 看了那个电影，我感动得慌。
- ? 11. 天气好得不得了。
- ? 12. 房间里干净得要命。
- \* 13. 我口渴得多。
- \* 14. 我们希望得很。
- \* 15. 他们跑得要死。

以上の例は一般には言わない、あるいは不自然な文である。これで程度の高さをあらわす文における“得”の前に、すべての形容詞あるいは動詞が生起しないことがわかる。では、一体どのような形容詞と動詞が適用されるのであろうか。その適用される条件にはどのような制約がみられるのか。小稿では、いわばそこにあらわれる語的な特徴を、“得”の後に“很”、“厉害”、“多”で補語をみたす成分となる文に限って考察してみることにしたい。

## 2. “～得很”について

### 2・1 “～得很”の前の形容詞について；

“很”はもともと副詞で、形容詞または動詞の前に用いられるものである。程度補語構文の中で“很”を用いて、程度の高いことをあらわすとき、どのような意味的な特徴をもった語が“得”の前にあらわれるのであろうか。まず、典型的な例として思い浮かべることのできる以下の例を見てみ

よう。

16. 这个花瓶她喜欢得很。
17. 看了那个电影，我感动得很。
18. 这朵花儿香得很。
19. 对他我佩服得很。
20. 我们学校大得很。
21. 这个问题不用说，清楚得很。

以上の例から“得”の前には形容詞や、心理活動の状態を表わす動詞が用いられていることがわかる。では、すべての形容詞を“～得很”の前に用いることができるだろうか。以下の例によって比較検討して見よう。

22. 到了晚上，这一带黑得很。      \* 到了晚上，这一带黑黑得很。
23. 他的样子傻气得很。      \* 他的样子傻里傻气得很。
24. 孩子的眼睛圆得很。      \* 孩子的眼睛圆溜溜得很。
25. 生活苦得很。      \* 生活苦里呱叽得很。
26. 屋里的墙白得很。      \* 屋里的墙雪白得很。
27. 银幕上的英雄形象高大得很。      \* 银幕上的英雄形象又高又大得很。

以上の例を比較してみて観察される傾向としては、“～得很”の前に用いられる形容詞は単純形式のみであることがわかる。一方、形容詞を重ねた形式や、後ろにほかの成分を加えた形容詞、さらに複合形式または形容詞を中心に構成された形容詞句などはこの種の文に用いられない。理由はこれらの形容詞自体が程度の高さを表す機能を持っているからである。

## 2・2 “～得很”の前の心理活動状態をあらわす動詞について；

次に心理活動状態をあらわす動詞についても、すべてこの種の動詞が適用されるかどうか、検証してみることにしよう。

- \*28. 关于这个问题，他懂得很。
- \*29. 我们同意很。

\*30. 你误会得很。

\*31. 老师知道得很。

\*32. 人们希望得很。

上記の例によって、心理活動状態をあらわす動詞のすべてが“～得很”の前に用いられるわけではないことがわかる。

2・3 “～得很”の前のその他の動詞について；

以上の議論では“～得很”の前に単純形式の形容詞と一部の心理活動状態を表す動詞などがあらわれることがわかったが、更にここではその他の動詞をこの種の文に用いることができるかどうか、考察してみたい。次の例を見てみよう。

33. 我们这个小店赚得很。

34. 他生活节省得很。

35. 船在海上颠簸得很。

36. 母亲对孩子迁就得很。

37. 这孩子闯荡得很。

以上あげた例のなかでは“～得很”の前の動詞は全て心理活動状態をあらわすものではないが、自然な文として成立している。“赚”、“节省”、“颠簸”、“迁就”、“闯荡”などのこれらの語は動詞でありながら、一方、形容詞的な意味上の特徴も持っていると考えられる。また形式上も形容詞の代表的な文法機能である「副詞“很”による修飾」をうけることができる。したがって、これらの語は「形容詞と兼類の動詞」の一種といえる。

2・4 程度補語としての“很”と副詞としての“很”；

2・2, 2・3, 2・4において、それぞれ“～得很”の前に位置する形容詞と動詞について述べたが、つぎに程度補語に相当する“很”の位置を変えて見てみよう。

\*38. 屋里的墙很雪白。

- \*39. 旭日很红彤彤。
- \*40. 关于这个问题他很懂。
- \*41. 我们很同意。
- \*42. 你很误会。
- \*43. 老师很知道。
- \*44. 人们很希望。
- 45. (17') 看了这个电影, 我很感动。
- 46. (24') 孩子的眼睛很圆。
- 47. (33') 我们这个店很赚。
- 48. (34') 他生活很节省。
- 49. (35') 船在海上很颠簸。
- 50. (36') 母亲对孩子很迁就。
- 51. (37') 这孩子很闯荡。

以上の例から次のことが明かになる。即ち、“得”の後の“很”は文末に位置するにもかかわらず、元来有するところの副詞の機能は失われておらず、“很”が“得”の前の形容詞或いは動詞の前に位置していても、文は成立し得る。つまり、“很”で修飾され得る形容詞や心理活動状態を表わす動詞、および形容詞と兼類の動詞のみ、“～得很”による第一類の程度補語構文に用いることができるのである。

“～得很”の前に用いられる形容詞には次のようなものがみられる。

红、白、长、短、薄、亮、困、饿、早、渴、忙、丑、难、懒、累、  
美丽、仔细、整齐、清醒、明白、冷淡、固执、重要、滋润、高兴、  
迷糊、伟大、艰巨…

一方、“～得很”文とともに用いることのできない形容詞としては次のようなものがある。これらの形容詞は副詞“很”とともに用いることもできない。

静静(的)、胖胖(的)、滚热、焦黄、亲亲热热、马马虎虎、黑洞洞、乱哄哄、香喷喷、黑不溜秋、脏了咕叽、糊里糊涂…

また、心理活動状態を表す動詞で“～得很”の前に用いられるものは、

嫉妒、怕、后悔、自居、愿意、佩服、喜欢、烦恼、渴望、发愁、着迷、同情、尊重、服从、嫉恨、自豪、克制、讲究、怀疑、恼怒、害羞…

などがあり、一方、用いられない同類の動詞としては、

误会、感觉、觉得、懂、希望、记得、忘记、发现、反省、以为、考虑、错怪、肯、忽视、忍耐、接受、拒绝、承认、留心、回忆、吓、知道、着慌…

などがあげられる。さらに“～得很”の前に用いることができるその他の動詞(ただし形容詞との兼類)については、次のものがみられる。

保密、牢靠、配(般配)、费(钱)、卡、唠叨、闯、折腾、响、依靠、消耗、限制、兴(流行)、晒、颠簸、轰动…

### 3. “～得厉害”について

3・1 “～得厉害”も“～得很”と同じく程度の高いことをあらわす言い方である。

52. 她病得厉害。
53. 天阴得厉害。
54. 外面吵嚷得厉害。
55. 她的心跳得厉害。
56. 风大得厉害。

以上の例から“厉害”をみたす補語として、“～得厉害”の前に形容詞(例53、56)、および動詞(例52、54、55)も用いることができることがわかる。

3・2 ここでも同様にすべての形容詞と動詞を用いることができるかどうか、次の例によって比較してみよう。

57. 今天冷得厉害。                    \*57'. 今天暖得厉害。  
58. 这孩子马虎得厉害。           \*58'. 这孩子认真得厉害。  
59. 她伤心得厉害。                   \*59'. 她感动得厉害。  
60. 外面吵嚷得厉害。                \*60'. 外面安静得厉害。

以上の例ではいずれも文の中に形容詞と動詞が用いられているものの、左側の文は成立するが、右側は成立しない。更に観察するならば、左側と右側の動詞または形容詞の意味が対立していることから、“～得厉害”の前にはあまり好ましくない意味をあらわす語が要求されることがわかる。つまり、“厉害”は、もともとマイナス評価の意味を持つ語と共起する特徴があり、一般に事物に対して不満を感じたり、あるいは好ましくない状況に用いられている。

3・3 “厉害”は副詞として形容詞、動詞の前において用いることはできない。成立する例は次のような場合である。

61. 母亲厉害地心疼。  
62. 他厉害地伤心。

したがって、“厉害”は形容詞の一種とみなしうる。そこで形容詞としての他の文法機能を持っているかどうかを、みてみよう。

63. 他伤心得厉害。  
64. 他伤心得很厉害。  
65. 他伤心得厉害极了。  
66. 他伤心得太厉害了。  
67. 他伤心得厉害不厉害？

以上の例からわかるように、“厉害”は形式共に形容詞の文法的な機能全てをそなえ、かつ、“得”の後ろにおいても形容詞として機能する。

3・4 “～得厉害”の前に用いられる形式；

プラス評価の意味を持つ形容詞や動詞とともに用いることができない。



(1) 一般に、“～得厉害”の前に用いられる形容詞には二種類ある、

A. 形容詞自体は評価の意味を持っていないが、形容されるもの(名詞)との組み合わせで、好ましくない状況を表現するもの。“～得厉害”とともに用いられるこれらの形容詞は次のようなものである。

黒、白、小(声音)、大(風、水)、干、長、短、厚、薄、少、  
左、右…

B. マイナス評価の意味を持つ形容詞としては

烫、凉、慢、难、糊涂、马虎、艰巨、老、破、傻、心虚、憋、急、渴、  
闷、烦、胆怯、冷淡、拥挤、乱、累、气、忙、偏、晕、慌、饿…  
などがある。

(2) 心理活動状態をあらわす動詞には、次のような語例がある。

心疼、着急、颤抖、后悔、自居、迁就、偏袒、抖、怵、伤心、堕落、猜疑、  
伤感、咳嗽、恶心、呕吐、娇惯、敷衍、迷信、欺负、堵(心)、赖…

(3) 心理活動状態をあらわさない動詞としては次のものがある。

变、咳嗽、逼、闹、整治、欺负、费、消耗、卡、限制、冻、折腾、糟蹋、  
毁、抽(烟)…

#### 4. “～得多”について

4・1 “多”が程度補語にあらわれるとき、“很”、“厉害”と同じ程度の高さを表すだけではなく、程度の差を意味する機能もまた有している。次の例を比較してみよう。

68. 他们过日子节省得很。

69. 他们过日子节省得厉害。

70. 他们过日子节省得多。

例68は「生活がとてもきりつめられている」という意味で、例69は「きりつめすぎる」の意味だが、例70は「他の家族よりはるかにきりつめている」

という意味をあらわしている。文全体の意味としては話し手の対象、事柄に対する比較の意図がみとめられる。次の例を見てみよう。

71. 她漂亮得多。 (她比另一个人漂亮。)  
72. 今天累得多。 (今天比昨天累。)  
73. 这个结果好得多。 (这个结果比那个结果好。)  
74. 这个我喜欢得多。 (比起那个, 我更喜欢这个。)

4・2 “多” はもともと形容詞または副詞的な働きを持っている。ここでは“～得多”文の中の“多”はどのような働きにあたるであろうか。以下の例を比較して見てみよう。

75. 我看得多, 他看得少。  
76. 这个问题容易得多。

例75を変えてみよう。

77. (75') 你看得多不多?  
78. (75'') 我看得太多了!

例76を同じく変えてみよう。

- \*79. (76') 这个问题容易得多不多?  
\*80. (76'') 这个问题容易得太多了!

以上、変換した結果から、例75の中の“多”は形容詞であるが、程度補語の例文76の“多”は形容詞の機能を持っていないことが明かになる。この場合の“多”は副詞であるかどうか、例文70、73の中の“多”の位置を変えてみることによって検討してみよう。

81. (70') 他们过日子多节省!  
82. (73') 这个结果多好!

以上の例からわかるように、“多”を“得”の前の形容詞、あるいは動詞の前にもってきても文の成立をさまたげることはないが、文の本来の比較の意味からはなれて感嘆文になってしまう。さらに次の例を比較して、考

察してみよう。

83. 他们过日子节省得多。
84. 他们过日子节省多了。
85. 这个结果好得多。
86. 这个结果好多了。

以上の例の“～得多”文の中の“多”は“形容詞+多+了”文の“多”と明かに同じ働きをしていることがわかる。即ち、ここでは、“多”の働きは比較文の中で程度副詞として、差の程度が大きいことを表している。

## 5. おわりに

程度補語は、文法的にみて比較的複雑な構造をもっている。それを正しくマスターするにはいろいろな文法知識が必要であるが、とりわけ“得”の前後に位置する語の成分の諸特徴を明かにしていくことが重要な課題となろう。小稿は、程度補語のなかの程度の高さを表す言い方の一部分について考察したものであるが、論じ尽くせなかったいくつかの点については、また、別の機会に考察することにした。

## (追記)

小稿は1990年10月に行われた日本中国語学会第40回全国大会で研究発表したものの一部をまとめたものである。まとめるにあたって、お茶の水女子大学の相原茂先生、明海大学の滝幸子先生から貴重なご意見とご指導をうけたまわった。記して感謝申し上げる。

**【主要参考文献】**（順不同）

- ① 李临定(1986)《现代汉语句型》商务印书馆
- ② 松村文芳(1987)〈现代汉语“得”字结构研究〉《语言研究论丛》第三辑  
南开大学中文系《语法研究论丛》编辑部编
- ③ 朱德熙〈现代汉语形容词研究〉《语言研究》1956年第1期
- ④ 吕叔湘主编(1980)《现代汉语八百词》商务印书馆
- ⑤ 刘月华、潘文娉、故轲(1983)《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
- ⑥ 王砚农等编《汉语动词—结果补语搭配词典》北京语言学院出版社
- ⑦ 袁毓林〈祈使句和动词的类〉《中国语文》1991年第1期